

10 フィリピン 海上安全整備事業(2)

最優先地域マニラーセブ間の
海上航海の安全性の向上に貢献

承諾額／実行額 55億7,900万円／52億6,200万円
 借款契約調印 1995年8月
 借款契約条件 金利2.7%(コンサルティングサービス部分は2.3%)、
 返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
 貸付完了 2001年6月
 実施機関 運輸通信省 URL: <http://www.dotc.main.gov.ph>



本事業の目的

マニラーセブ間の航路を中心に航行援助施設を整備することにより、海上航海の安全性の向上をはかり、同国の海上運輸の信頼性向上および地域経済の発展に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) 評価 a

灯台や灯浮標などの施設が整備されたことで、悪天候時の航行位置確認が可能になり、安全性が向上した。また、これらの施設に太陽光電池を使用したことで、配電会社の電力供給不足の問題が解消され、運用率がほぼ100%となったことも安全性の向上につながっている。これに付随し、灯台に点消灯の電動センサーを装着することで灯台守の勤務が不要となったため、コストが削減し、人為的管理ミスも減少した。受益者調査においても98%が安全性の向上を効果に挙げている。海難事故件数は台風の大きさと頻度に左右されるため効果を見ることは難しいが、事業開始(1995年)後、右下がりの減少とはいえないながらも2005年には1995年と比べてフィリピン国全体(本事業効果を含む)の事故件数が減少している。よって、本事業の実施により概ね計画どおりの効果発現がみられ、有効性は高い。

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) 評価 a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家中期計画と合致しており、事業実施の妥当性はきわめて高い。審

査時および事後評価時双方の同計画において効率的、安全で信頼性の高いインフラの整備および維持管理の遂行を戦略に挙げており、海事安全改良計画(MSIP: 1998～2010年までの目標)の中で最も航行密度の高いマニラーセブ航路の灯台設置を優先事業としていた。

事業実施の経済性(効率性) 評価 b

事業費については計画を若干下回ったものの、期間が計画を大幅に上回った(計画比171%)ため、効率性については中程度と評価される。事業遅延のおもな要因としては、灯台を11基追加設置したことが挙げられる。

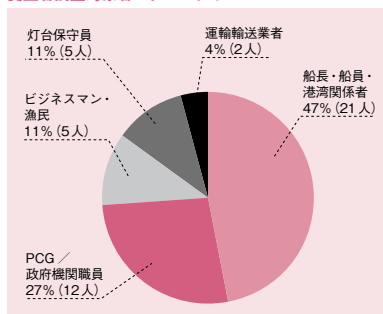
今後の展望(持続性) 評価 b

本事業は、維持管理予算が十分とはいえないが、航行援助施設の運営維持管理を行うフィリピン沿岸警備隊(PCG)の専門職員は定期的な研修を受けており、職員の能力と技術は十分であることから、持続性は概ね問題ないと評価される。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は高いといえる。運営維持管理責任機関である運輸通信省(DOTC)およびPCGは、安全航行施設の維持管理費を補うために、航行援助施設の使用料徴収を含め、十分な予算措置の方策を至急検討することが望まれる。

受益者調査対象者のプロフィール



調査対象者による効果内容

効果の種目	効果と認められた割合(%)
安全性の向上	98
観光の促進	36
就労機会の増加	22
地域関係の改善	20
ビジネスの促進	18

開発途上国専門家の意見

本事業は、同国の海上輸送の安全性向上のニーズに応えた。受益者調査により、安全性の向上に加え、観光業の促進による地域経済の活性化などが確認され、事業効果の大きさがうかがえる。

専門家の氏名: Ms. Rosalinda Gadugdug-Paredes (民間企業/NGO)
 サンカルロス大学修士(心理学)。現在は、生態系と住民資源会社社長、ボホール州ステークホルダー委員会副委員長他。専門は地方行政、小規模企業育成、人材育成研修、地域民主主義プログラム。